

ほかの人の良いところ
を取り入れ
自分の欠点を補うこと
が大切である

『吉田松陰宛書翰』

木戸孝允

天保四年長州で藩医和田家に生れ
天保十一年、藩士桂九郎兵衛の養子
となる。嘉永二年吉田松陰に兵学を
学び、その後江戸に遊学、洋式兵術
造船術、蘭学などを学ぶ。
慶応二年薩長同盟を結び、その後幕
府軍との戦いで勝利を収める。明治
元年、太政官に出仕、五箇条誓文の
起草に関与。版籍奉還、廃藩置県な
どに主導的役割を果たした。

神道知識への誘ひ「八百万神」

八百万とは非常に数が多いことを表
した言葉で、実数を示したものでは
ありません。江戸時代の国学者本居
宣長は神について、古い書物に見える
天地の諸々の神たちを始め、それを
祀る社に鎮まる御霊をいい、人は言
うまでもなく、さらに鳥獣木草のた
ぐい海山など、その他なんであれ世の
常ならず、優れた徳があり、「可畏き
物を迦微(かみ)という」としています。
日本には古くから善い神も悪い神も
数多の神々が存在し、先人たちは崇
敬と畏怖の念を込めて、八百万神と
表現し、日々の生活を多くの神々と
共に生きる道を歩んできました。



人の巧こうを取って我が拙せつを捨て
人の長を取って我が短たんを補う

木戸 孝允
きど たかよし